

第6回安曇野市観光振興ビジョン有識者会議 会議概要

- 1 会議名..... 第6回安曇野市観光振興ビジョン有識者会議.....
- 2 日 時..... 令和3年5月28日..... 午後2時から 午後3時20分まで
- 3 会 場..... 安曇野市役所本庁舎 4階 会議室 401.....
- 4 出席者..... 宮田弘康委員（会長）、白澤勇一委員（副会長）、中澤美穂委員、中村 梢委員、川崎克之委員、松元 久委員、加集安行委員、米澤章雄委員.....
- 5 担当課出席者..... 商工観光部 久田部長、観光交流促進課 大竹課長、藤澤係長、由井係長、古畑
- 6 公開・非公開の別..... 公開.....
- 7 傍聴人..... 1人..... 記者..... 0人
- 8 会議概要作成年月日..... 令和3年6月8日

協 議 事 項 等

【次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 説明 (1) 目標指標について
(2) 令和2年度の実績報告について（評価項目説明）
- 4 その他
- 5 閉会

【説明内容】

- (1) 目標指標について
- (2) 令和2年度の実績報告について（評価項目説明）

《事務局より説明》

〈会長〉 評価シートの3ページ、主要施策2-1【「農」や「里山」のある暮らしの維持・継承】の下の2つについて、今回の評価は観光振興ビジョンとしての評価をしているが、「里山の再生」事業についてどのように観光振興と考えて評価すればよいか。また「荒廃農地対策」も観光振興としていかに評価すればよいかのわからない。

〈事務局〉 里山の再生について主眼は里山の保全ということだが、都会から整備活動に参加する方もいるため、それをきっかけに観光振興に役立てることができればと考える。荒廃農地についてはこのまま拡大してしまうと安曇野の観光資源でもある景観も損ねてしまうということからここに挙げた。

〈副会長〉 目標指標の「来訪者満足度」と「再来訪意向」は観光協会来訪者アンケートに基づいて出された数値である。アンケートの方法は管内の宿泊施設で部屋置きしているものと観光情報センターを訪れる人に直接渡しているもの、イベント実施場所で回収するもの、の3手段。令和元年度まではサンプル数3,000を超え有効な数字であったが、令和2年度についてはコロナの影響で年間を通じてサンプル数は1,000を切っている。本来、観光アンケートとは2,000以上のサンプル数で有効と言われているため、2年度の数字は少し信憑性に欠けるかとは思いますが、傾向としては読み取れると思うのでご理解いただきたい。

提出する評価シートについて新しい様式に差し替えるということだが、主要施策の下にある各実績についてひとつずつ評価するということでよいか。

〈事務局〉 各実績の部分に個別に評価欄を作る。現在のシートで「評価」となっているところは「総合評価」と直したものに差し替える。

〈会長〉 アンケート受付数について、3,000、2,000を切っているようなもの、令和2年度のように受付数が少ないものには、横に「参考」などと付けることを事務局で検討いただきたい。

〈委員〉 再来訪意向については来訪回数ごとのクロス集計はあるか。

〈事務局〉 （口頭で数を説明後、）後日、この調査結果について委員へ送付したい。

〈委員〉 最初に会長がおっしゃった「里山の再生」や「荒廃農地」、「周遊バスの運行」など、観光

協 議 事 項 等

部署だけではできないことを含めての観光地。いい土地として人を呼び寄せることでもあるので、これを踏まえて評価しなければいけない。公共交通機関がひとつしっかりしていれば一般的な観光客は増えるし、荒廃農地が少なくなればもっとよいイメージになることは皆さんも同意いただけると思う。観光課だけではできない。それを評価しなければ埋もれてしまうのでは。観光課のことだけでなくピックアップしていかなければいけない気がする。

〈事務局〉 以前の会議でも出されている意見。関係部署と連携を取りながらということ、情報の交換はしているところである。今後、新ビジョンを作るなかではどう表現していくかを検討していきたい。

〈委員〉 地元の方が観光にどれだけ関心を持っているか。公共交通問題を含めてそうであるが、自家用車で動く人はバスを使おうとは思わない。しかしこれからの社会、持続可能社会を考えた場合、例えば車の量を減らしましょう、そうすることで健康にもつながります、ということにもなる。観光オンリーではなく福祉・医療などすべてに関連してくるのが、結果観光にあらわれてくる。守備範囲は超えるが、ここで提言として出す必要があると思う。農業振興でも、農業をしている方にとってはよそから来る人が迷惑だと思ふこともあるだろうし、スピードの出ない農耕車両が道を走ることによって車が渋滞し、観光で来る人にとっては何だろうと思ふこともあると思う。主要な産業のひとつが農業だということ、安曇野暮らしツーリズムをひとつの売りにしていること、訪れるひとだけでなく地元の人の理解がなければ進まないかと思う。

〈会長〉 そのとおりであり観光事業は総合事業である。が、今回の中間報告ではあくまで観光について。提言については意見の欄に記入して次期ビジョンに反映していく。

〈委員〉 他の部署とどうやって観光ビジョンを共有していくかということがとても重要。そのことから、現在までに他部署でどう活用したか、他部署の事業計画に活用するようなことがあったか、など事例がもしあれば教えてほしい。

〈事務局〉 明確なものはない。逆に他部署の計画について関係する部署が関わることはある。今後検討していく必要はあると考える。

〈委員〉 ひとつの計画に対しこの部署ではこう取り組んでいる、またこの部署ではこのように、というようになると市全体で取り組んでいるイメージがある。市全体でやっていきましょう、というものの、評価してみるところは商工観光部でやった事業でおさまってしまっている。AとBとで選ぶとき、この観点が入ったらもしかしたらBを選ぶかもしれないのに、そのままいったらAになってしまう、ということもあるのではないかと、市民の立場からは思うところもある。

〈事務局〉 ワークシートがあまりに大きくなってしまうと、本来の観光振興ビジョンで目標を掲げたものについて、風呂敷が包めなくなる状態になっていけない。そのことから加減をしていかなければいけないとも考える。

〈委員〉 今回の取りまとめをみていて大変だとは思ふ。できる範囲で結構なので進めてもらえれば。

〈会長〉 次期ビジョンについての意見は評価シートの意見欄にいただきたい。

(終了)

※ 会議概要は、原則として公開します。

※ 会議を非公開または一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。